

【事業計画】

2021年・2021年度 学友会事業計画

〔総括〕

当該年度では新たな事業はないが新型コロナウイルス感染症の動向を注視しつつ、会員相互の親睦、組織結束力の強化により本学友会を益々発展させたい。また、母校の発展のために積極的な支援を継続する。

(1) 母校への後援活動について

これまで通りすべての行事に積極的に参加し、学園行事に協力する。

(2) 支部活動の支援と連携について

新型コロナウイルス感染症の動向次第であるが、例年通り、定期的な支部総会開催を要請すると共に、支部総会の出席に努めたい。

(3) 学友会名簿の発行について

例年通り、2年ごとの発行を目指す。

〔委員会計画〕

(1) 庶務委員会

理事会・委員会等会議の開催、学友だよりの発送、ホームページの定期的な更新および内容の充実を図り会員相互の連携を強化する。なお、コロナ感染症への対応として、理事会、委員会会議および支部総会等がオンライン(Zoom)で可能なように、学友会として契約を検討している。

名簿委員会と連携して会員情報の管理、支部の役員名簿、卒業生就職先名簿など各種文書の取扱業務を行う。また、支部総会および同窓会開催時には、要望に応じて会員宛名シールの提供を行い支部・同窓会活動を積極的に支援する。

(2) 編集委員会

「学友だより」を年4回発行する。内容は例年通りとする。専門学校卒業、短期大学卒業、大学卒業、それぞれの会員に有用な情報を新たに検討し、掲載する。支部総会や同窓会の会場の雰囲気、人物が一目で確認できる大きな写真を掲載することが有効かつ好評であったため、引き続き情報の視覚効果を活用していく。ただし、個人情報については十分留意する。

各号のページ数は8から12頁を目安とする。

(3) 企画委員会

1) 就職懇談会の開催

就職懇談会を6月に例年通り、企画委員(西田、辻居)を中心に学内理事の協力を得て最終学年の生徒を対象に開催する。臨床実習や就職活動に役立つように、また卒業(国家試験)までの時間を有効に過ごせるような動機づけることを目的にする。

2) 大瑠璃祭における{相談コーナー}の開設

大瑠璃祭の相談コーナーを開設。3学年を中心に学生の相談に応じる。高校生を対象としたオープンキャンパスも同時に実施されるため、実験室の医療機器の説明や業務内容の説明も併せて行う。また、診療放射線技師の業務を紹介したDVDも流す。

新型コロナウイルス感染症の中では、次年度の事業の予想は難しく、今までとは異なる形での事業展開を考慮する必要がある。これまでの経験をふまえて運営に努める。

(4) 名簿委員会

令和3年度は名簿の発行を行わないため、新入会員の登録ならびに現会員登録情報の修正に対応する。令和4年度には会員名簿2022年版の発行を行う。

過去の収入状況について、

2012年版: 広告収入 1,370,000 円(32社)、頒布収入 656,000 円(328冊)、

2014年版: 広告収入 1,090,000 円(23社)、頒布収入 688,000 円(344冊)、

2016年版:広告収入 680,000円(13社)、頒布収入464,000円(232冊)、

2018年版:広告収入750,000円(13社)、頒布収入380,000円(190冊)、

2020年版:広告収入720,000円(12社)、頒布収入376,000円(188冊)

であった。

広告収入・頒布収入ともに減少傾向が見られるが、卒業生の連絡先の把握は学友会事業の根幹をなすものであり、継続する必要性は高いと考える。

2021年1月末(現在)の集計、特別会員13名、賛助会員266名、準会員(在学学生)368名、卒業生総数(正会員)4,795名である。逝去会員を除く正会員数3,909名、このうち連絡先が登録されている会員は3,354名(86%)であった。

(5)表彰委員会

2023年学友会総会においての、名誉会員の推戴、表彰規定にもとづく表彰者、並びに感謝状贈呈者の選考を行う。

(6)財務委員会

1)一般会計

収入について、安定的に新入会員を確保できているため、終身会費からの補助金を同額とし、総額9,304,746円(前期10,461,050円)を計上した。

支出について、学友だより発行費を前期決算額をふまえて40万円減額、発送費を10万円減額、発送事務費を25万円増額とした。名簿発行費は前期;決算額をふまえて30万円減額した。旅費交通費・会議費については、対面の支部総会・理事会が実施できることを期待して、前期と同額を計上した。消耗品費は発送事務の委託により10万円減額した。全体として、総額9,250,000円(前期10,150,000円)を計上した。

2)終身会費

前期と同様に、収入分と同額を補助金として一般会計に繰り入れることとした。国債の利息と合わせて、今期末の積立額は43,747,029円(前期末42,947,029円)となる予定である。

3)21世紀創生基金

今期は支出の予定はない。随時寄附の受付を行い、基金として適切な運用・管理を行う。

以上

* 通巻240号 2021年7月10日発行(2021-No.2)より